事業実施報告書

法人名	特定非営利活動法人みんなで元気
活動名	わこう銀色プロジェクト
助成事業の種類	SDGs推進活動助成
	パートナーシップ分野

事業の目的

・和光市が課題としている「雑紙を分別して資源ごみとして出す」並びに「燃やすゴミの削減」を推進し、SDGsに貢献する。
・高齢者が心身共に健康な生活が送られるよう、フレイル予防や介護予防の機会を作る。
・高齢者の孤立を防ぎ安心安全な暮らしが長く続けられるよう、自治体や地区社協など様々な機関との連携を図ることや世代間交流の機会を作る。

事業で取り組んだ地域や社会の課題

・和光市は、雑紙の分別がなかなか進んでおらず、燃やすゴミにも紙ごみが多い現状がある為、環境に対して関心を持つ事や自分達のできる事から
実践することを、世代を超えて市民同士で繋がりながら一緒に取り組んでいく必要がある。
・和光市も高齢化が進んでいるが、公的手段に頼るだけでなく、健康維持を図るための自助努力や実践するための多種多様な手段が必要である。
・高齢者への見守りやサポートを若い世代を含む地域住民が連携して行えるよう、支え合える関係性づくりや理解を深める機会の創り出しが必要である。

取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果

・主に高齢者が新聞紙で作ったゴミ袋（雑紙分別用、生ごみ用、油処理用、卓上用など）を、図書館への常時設置やイベント等での配布を行った。
・ゴミ袋の配布や広報活動を実施した事で、これまであまり実践していなかった市民に対しても自分達にできるSDGsの取り組みとして推進することができた。
・高齢化が進む大型団地内集会所で継続的に銀プロサロンを開催し、新聞紙ゴミ袋を作成する事で高齢者のフレイル予防や居場所としての役割も果たした。
また、自治会や地区社協、包括などとの連携を進めた事により、地域で暮らす高齢者を多くの視点で見守る事ができる道筋も作った。
・祭りやイベント時にゴミ袋作りのワークショップを行った事で、SDGsの広報活動と共に、世代間交流の場や高齢者の社会参加の場となった。
・近隣の学童や地域の子供たちを対象に、8月開催の銀プロサロンへの参加を促し、環境に関するクイズ、ゴミ袋作りワークショップ、ゲームなどを行った。
親子連れ、祖父母と一緒に参加した子供達もいたが、熱中症の心配もあり、学童からの参加は中止となった。

事業実施により達成した成果の具体的な内容

・市民から「銀プロさんのゴミ袋、使っています」「作り方を教えてほしい」などと声を掛けられることが増え、生活に定着しつつある事を実感している。
また、仕事をしながら子育てをしているという女性から「本来は自分で取り組みたいが、時間に余裕がないため、銀プロさんのゴミ袋を活用させてもらっている。
感謝の気持ちを伝えたい」という主旨のメールが届くなど、若い世代がSDGsに関心をもっている事や世代を超えた繋がりが出来てきている事を実感している。
・認知機能低下の症状がある高齢者に参加者同士で声をかけあい、サロンへの参加を促すなど、孤立させない手段として活用されている。
・図書館への定期配架数・・・5種類4．805枚　・市民祭りでの配布数…3種類360枚　・子供の居場所祭りでの配布数・・90枚
・新倉北地域センターでの地区社協開催サロンや食事会での作成配布・・300枚
・銀プロサロンや自宅で作成を継続している人数・・20人　・自主的に作成し活用している市民人数・・計測不可

費用面での工夫
・会場費が助成金で賄えたことで、大型団地内の集会所を継続的に利用することが出来た。
・消耗品を購入する際など、ネットでの価格や近隣の取り扱い店での価格を比較したうえで、低予算で抑えられるよう料金の低いものを購入した。
・ゴミ袋の使い方説明について、紙に印刷したものを添付しているが、既に印刷済みの用紙を再利用して（裏紙）印刷し、リサイクルに務めた。
地域社会への還元
・高齢者が地域で元気に長く暮らすための介護予防の取り組みとしての役割を果たすことが出来た。
・和光市が課題とする「ゴミの分別推進並びにゴミの削減」に対して貢献することができ、高齢者の社会参加に繋がった。
・自分達にできることから実践することで、SDGsについて考える機会を作る事や実践に繋げる事ができた。
・高齢者が安心して、地域で長く元気に暮らせる環境づくりに貢献することができた。
・本町図書館の常時配架コーナーには、1週間に一度のペースで設置しているが、ほぼ3～4日でなくなるため、数量や設置回数を増やしてほしいという要望がある。
・市民から作り方のレクチャーをしてほしいという要望が図書館に届いているとの話がある為、近日中に実施する予定。
・銀プロサロンに参加している高齢者から、「様々な情報を見聞きしているが、このような居場所は本当に必要だと思う」と当事者ならではの前向きな発言がある。
今後どのように事業を継続し発展させるか
・ゴミの分別やにゴミの削減に対する関心が徐々に高まってていると感じる事が増えたが、祭りやイベントなどでの情報発信は今後も必要だと考えている。
また、活動を通じて、市内のSDGsの取り組みを行っている団体とも繋がる事が出来たため、様々な形で連携した取り組みを行いたい。
・関わってくれる高齢者が徐々に増えていおり、作成できる数量も増えて
・銀プロサロンは高齢者の居場所という役割も果たしており、閉じこもりがちな高齢者への呼びかけや誘い出しを、自治会や地区社協、
地域包括支援センターなどと連携し、介護予防、フレイル予防に繋げていきたい。
・高齢化が進む西大和団地の集会所で実施している銀プロサロンは今後も継続したい。また、他の地域でも、地区社協などと連携して作り方講習会を行ったり、
銀プロサロンを展開するなど、ゴミ袋を作成する高齢者を増やし、図書館での配架数や配架場所を増やしていきたい。

事業収支計算書

法人名　特定非営利活動法人みんなで元気

1 収入の部　（単位:円）

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C＝B－A	備考
助成金	240,000	217,000	△ 23,000	
自己資金	26,722	25,082	△ 1,640	
活動実施による収入等	0	0	0	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	266,722	242,082	△ 24,640	

2 支出の部　（単位:円）

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C＝B－A	備考
会場費	10,800	14,040	3,240	
通信運搬費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
消耗品費	129,922	95,642	△ 34,280	
備品費	0	0	0	
委託費	0	0	0	
謝金	0	0	0	
人件費	126,000	132,400	6,400	
その他	0	0	0	
支出の部 合計	266,722	242,082	△ 24,640	